

みくに保育園自己評価

令和5年度

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。これに基づき、みくに保育園の保育の質の向上を図る為に自己評価を実施いたしました。保育園としての自己評価について、評価の項目、視点、方法および評価結果を下記の通り公表し、評価の結果を踏まえ今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

『評価について』

A:よくできている B:わりとできている C:一部改善が必要 D:改善しなければならない

保育所の基本原則

- ・みくに保育園の保育理念、保育目標、保育指針を理解している

A	12	B	9	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の役割、保育の目標、方法、環境を理解している

A	12	B	7	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・保育指針に書かれている保育所の社会的責任について理解している

A	14	B	5	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

養護に関する基本的事項

- ・保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことがその特性であることを知っている

A	14	B	7	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・生命保持のねらい内容について知っている

A	13	B	7	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・情緒の安定のねらい内容について知っている

A	13	B	7	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

保育の計画及び評価

- ・保育目標を達成するために、自園の保育方針や目標に基づき、子どもの発達過程をふまえて、全体的な計画を作成することを知っている。

A	15	B	6	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・全体的な計画に基づき、具体的な保育が適切に展開されるよう、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と、それに関連しながら、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的な指導計画を作成している。

A	10	B	8	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

- ・3歳未満児は、一人ひとりの子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成し、3歳以上児は、個の成長と、子ども相互の関係や共同的な活動が促されるように配慮し、適切な援助や環境構成ができるよう配慮している。

A	10	B	10	C	2	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

- ・障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けている。

A	8	B	10	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助している。

A	9	B	10	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

A	8	B	12	C	2	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項及び生涯にわたる生きる力の基礎を培うための示された保育の目標を踏まえ、保育所として一体的に育むよう努める「資質・能力」の3本の柱の内容を知っている。

A	9	B	11	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・幼児教育を行う施設として共有すべき事項として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目をしっている。

A	10	B	10	C	3	D	0
---	----	---	----	---	---	---	---

保育の内容

・保育における「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであることを理解している。

A	15	B	6	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であることを理解している。

A	12	B	7	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・乳児期の領域「3つの視点」について知っている。

A	11	B	7		4	D	0
---	----	---	---	--	---	---	---

・乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発達及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。

A	11	B	7	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・1歳以上3歳未満児の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の意味、「ねらい」「内容」「内容の取扱い」について知っている。

A	10	B	8	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・3歳以上児の発達の内容と「5領域」について知っている。

A	12	B	7	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

保育の実施に関して留意すべき事項

・子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。

A	11	B	9	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、子どもの性差や個人差にも留意しつつ、差別などによる固定的な意識を植え付ける事がないようにしている。

A	14	B	7	C	1	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにしている。

A	8	B	11	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

健康及び安全

・子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発達及び発達状態について定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。

A	12	B	8	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、適切な対応を図っている。虐待が疑われる場合には、速やかに市町村又は児童相談所に通告し、適切な対応を図っている。

A	11	B	9	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・感染症やその他の疾病の発生の予防に努め、その発生が疑いある場合には、必要に応じて嘱託医市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、予防等について協力を求めている。

A	12	B	5	C	5	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・アレルギー疾患を有する子どもの保育については、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき適切な対応を行うとともに、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っている。

A	12	B	7	C	3	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培う事を目標とし、子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待するものであることを知っている。

A	12	B	7	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等との関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮している。

A	6	B	8	C	7	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

・保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員共通理解や体制づくりを図るとともに、家庭や地域の関係機関の協力の下に安全指導を行っている。

A	8	B	10	C	4	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・事故防止の取り組みを行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫など必要な対策を講じている。

A	14	B	4	C	4	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行う、備品、遊具等の配置、保管を適切に行うなど日頃から、安全環境の整備に努めている。

A	7	B	10	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・火災や地震などの災害の発生に備え、緊急時の対応の具体的内容及び手順、職員の役割分担、避難訓練計画等に関するマニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を図っている。

A	9	B	5	C	8	D	0
---	---	---	---	---	---	---	---

子育て支援

・保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子供の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めている。

A	11	B	9	C	2	D	0
---	----	---	---	---	---	---	---

・保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。

A	8	B	11	C	3	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。

A	6	B	12	C	2	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

職員の資質の向上

・自己評価に基づく課題を把握し、保育所内外の研修を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。

A	5	B	12	C	5	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

・職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育所全体として保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。

A	3	B	13	C	6	D	0
---	---	---	----	---	---	---	---

個人評価

*今年度の評価・課題

・本年度は受け持っていたクラスの子ども達が自らスキシップを積極的にしてくれるが多かったこともあり、自分がいつも心に置いている保育が出来たと思う。また改めて自分の好きな保育について振り返ることが出来た1年だった。

・一人担任ということで、子ども達一人ひとりの個性を認め一人に合った関わり方、保育を意識しながら過ごした。

・今年度は3回目の4才児担任となったが、例年と比べ全体的な幼さがみられ、保育内容であったり、一人一人の援助・関わり方を自分の中で試行錯誤した一年となりました。クラスの人気は少ないものの、年々子ども一人ひとりの援助が大切になってきている為どのように関わり、声掛け、話すことで子どもが伸びていくか、まだまだ自分の中で学ばなければならないことが沢山あると感じた。

・支援が必要な園児への対応に悩んだ一年でしたが、得た学びは多く、時間をかけて信頼関係を築くことが出来た。

・子どものペースに合わせて少しずつ手助けしながら見守ることが出来た。

・パートでも保育士としてしっかり与えられた仕事を行えるようにしたい。

・メニューが充実し手作りおやつ等協力し、去年より沢山作ることが出来ました。

・給食とおやつ作りが出来る体制を課題とし進行させるよう努めました。

・同じ学年の職員と協力しながら、話し合い助け合うことが出来た。自分の苦手な部分、得意な部分も知ることが出来た。

・3才の保育指導

・クラスのリーダーに従い、クラスが円滑にまわるよう心掛け、自分の保育を見直すことが出来た。

・子ども一人一人と向き合い楽しく保育することが出来た。

・支援児に対し注意深く関り、適度に個別対応をし見守りつつ自立を促していった。

子どもと同じ目線になって、一緒に喜び一緒に考えながら行動した。

- ・主の先生を中心として、各先生が協力し合い声を掛けながら、子ども達の安全に留意し一人ひとりの成長を見守ることが出来た。

- ・日中の様子など些細なことでも保護者に伝え、家庭との連携を図るようにし子ども達が楽しく過ごしていけるように、一人一人に合った援助が出来るように。

- ・気持ちの面で余裕が出来たことで、仕事でも笑顔でいられたりゆとりがある保育が出来たと思う。また、相談できる先輩やアイデアを出し合える仕事仲間がいた事で勉強になった。

- ・ゆったりと子ども達と接することが出来た。保護者の方から労いの言葉を掛けて頂くことも多く、子ども達がみんな元気に笑顔で登園してくれてくれた事がうれしい。

- ・まとめようとする気持ちが前に出すぎてしまい一対一での関係がおろそかになってしまい、子ども一人一人のしっかり関わる事が出来なかった。

- ・精神的に余裕がなく、色々なことをおおらかに受け止める。

- ・子ども達の主体性をできる限りつぶさず「やりたい」「楽しい」と思う気持ちを大切に、子ども達と正面からぶつかり毎日の保育に取り組んだ。

*次年度の改善点

- ・今年度は積極的な意思表示の出来る子が多く触れ合いを多く持ってたが逆に子ども一人一人の性格によっては、こちらから働きかける必要のある子もいたのでその様な子に対しても同じだけの触れ合いができたかと考える処もあったので、個々に合わせた多様なコミュニケーションの取り方をしっかり持って行きたい。

- ・時間や仕事に追われる中で丁寧なかかわり方が出来るように心に余裕を持った保育をする。

- ・今年経験した、自分の中でこれやって良かったこと、またここは改善が必要な事を踏まえながら次年度は自分の中の保育を少しずつ固めて行ければと思った。また、様々な子と関り子ども一人一人に合った援助の知識を増やし、子どもの意欲を引き出せる保育を学んでいきたい。

- ・体調管理、課題の分離（担任の理想を子に押し付けない）

- ・友達同士のトラブルの解決策

- ・保育士自身の健康管理

- ・叱らずにクラスがまとまる技術

- ・一人一人の子どもにより添い、ゆったりとした保育を心掛けた。

- ・子ども達のやってみたいなどの意欲が出るようなあったかく楽しい雰囲気。

- ・日々の保育が0才児はゆったりと1才児はもっと活動的に気持ちに余裕を持ちながら、日々の保育を進めて行ければと考えます。

- ・目標を立て達成に向かって努力しようと前向きで臨めるようにする。

- ・スキルアップの為必要な研修を受講できるよう色々な情報を伝える。

- ・静かな性格の子どもに保育者から会話をし信頼関係を作って行きたい、支援が必要な子への対応も将来を考え、見守りや声かけをするよう援助したい。
- ・自分の出来る仕事を全うする。研修等を受けスキルアップ等に努力する。
- ・感情的になりすぎず冷静にいられるように心がける。

クラス運営評価

*今年度の評価・課題

- ・今年度は早めにクラスの子も達はどんな事が好きか、得意であるかを見極める事が出来たので、好きな事、興味を持ちそうなものを行事等の内容に取り入れ寄り添って進めることが出来ました。また、一緒に組んだ職員とも子ども達への愛情のかけ方も同じモチベーションでいられた事も良かった。
- ・子ども達の「できる」を信じ色々な事に挑戦、経験を試みた
- ・関りの無い学年での初めての一人担任ともあり、最初は信頼関係を築くことや成長に合わせた保育内容の面で、難しさを感じる場所が多々あり慣れるまで自分に余裕がない時があった。また、制作や活動の予期せぬ場合も想定した念入りの準備、その場その場の臨機応変の対応等、自分の中で反省すべき点が多々あった。一人一人進級までに育てたい姿を視点に子どもを見ることが出来た。
- ・保育内容、行事内容進め方などは、まず子どもが「楽しいか」を第一に考え難易度はあまり高くせず行うようにした。同学年の職員とよく話し合い連携をとりながら保育が出来た。
- ・最初は自分の事で精一杯でしたが、他の先生方に助けられ後半は楽しく出来た。
- ・リーダーの先生と対話を重ね月の制作や日常生活のすすめ方を決められた。
- ・パンツへの移行も、子ども達から興味を示しとても順調に進められた。
- ・主となる先生の意見が最優先されてしまうことが多かった。
- ・2人担任でも「主・雑(補助)」を交代で行うことでクラス全体が見えたと思う一日の出来事を細かに話し合い、新しいことに気が付けた。
- ・0才児と1才児の混合クラスということも有り、1才児は0才児に優しく接し0才児は1才児の様子を真似して成長できたことは良かった。年度後半は発達に差が生まれたので、1才児クラスと活動を持たせることも有りました。
- ・自我の芽生える年齢ということも有り、玩具の取り合いや手が出てしまうトラブルもあったが、その都度担任同士で話し合い共通理解が出来た。
- ・朝の連絡が一緒に組む先生達にしっかり伝えられていないことがあった。
- ・複数担任の年度だったので、仕事を分担出来たことで気持ちに余裕があり良かった。個々にコミュニケーションをとりながら同じ方向性で仕事をしていけるようまとめる事を心掛けた。
- ・市報、お知らせ版、ホームページ以外にもSNS等で発信していく。
- ・担任同士の連携を上手く取れたことが、子ども達の安定にもつながったと思う。

- ・自分から周りの状況を見て率先してよく動き、他クラスの援助も進んで出来た。
- ・自分の事に必死になってしまい、子ども達に我慢をさせてしまい不安にさせてしまいました。
- ・小さな変化も伝達し合い、保護者に伝えられるようにする等「共通理解」が出来一人ひとりと良く関り明るく楽しく子ども達と過ごせるクラスでした。
- ・子ども達が自分で考えることが出来、行動に移せることを目標に保育を行った。難しい子にはその子に合ったヒントを与え、一緒に考えた。又、できたことは沢山褒めてスキンシップを取ることを意識した。

*次年度の改善点

- ・同じ学年同士ばかりでなく、もっと異年齢交流の時間を多く持てると良かった。
- ・毎日、同じことの繰り返しの中で変化を見つけながら、伸び伸びと楽しめる環境
- ・自分に余裕を持てるよう、知識を付ける事を第一に次年度は頑張りたいと思う。その場その場の臨機応変な対応、子どもや保護者への対応の仕方、子どもの病気障害、応急処置等の知識、連携する機関とのつながり等自分で覚えるよう務める。
- ・散歩や園外保育を積極的に行えなかった。必要に応じて保育者を配置できればと思う。
- ・全体に気を配った保育をしていきたいと思う。
- ・職員間の共通理解、情報共有
- ・子ども達の様子をよく観察し、子ども達が出来そうなことを探してあげて出来る事を増やして上げられればと思う。
- ・その子に合った対応を考え、無理のない笑顔いっぱいの生活が送れるようにしたい。
- ・仕事量としては精一杯出来たと思うので、維持して行きたい。
- ・その年々で、子ども達の様子も異なるので、その発達を見極め、関わり方に留意し保育を進めて行きたい。
- ・見通しを共有することを心掛け些細なことでも相談したり、担任同士でも話し合いながら保育をしていきたい。
- ・保護者へ伝えるべき事（体調不良児）等の園内での基準にばらつきがあった。
- ・子ども達それぞれが遊びやすい環境作り。
- ・就学に向け子ども達をどこまで出来るようにするかとても悩んだ、経験を積みながら良いラインを自分の中で見つけて行きたい。

園全体評価

*今年度の評価・課題

- ・保育補助の先生が入ってくれた事により消毒掃除等をしていただき保育に集中できる時間が増えてとても感謝しています。
- ・手作りおやつが増え、子ども達はもちろん保育士も楽しみにしています。有難うございます。
- ・以上児、未満児の保育者間の壁のようなものを感じる。

- ・行事前準備の協力性
- ・各学年同士協力して話し合いながら物事を決めていく事が多かったが副主任がいて下さりとても心強かった。
- ・保護者の方に笑顔で挨拶や対応が出来ていると思う。
- ・食育も例年通り進行出来たと思います。
- ・保護者から「いつも笑顔で先生が明るくて、有難いです」との声をもらうことがあるので、雰囲気は良いと思う。
- ・熱中症対策や年間行事予定、災害や緊急時に対するの対応を各学年で話し合い会議で検討していく事は全体理解しやすく良いが、他の施設や地域の対応連携や情報交換が増えると良いのではないかな。
- ・有給が残っているが他の先生と休暇が重なり取りづらいと感じる。
- ・子どもの人数に対しての保育士の人数だと理解出来てはいるが、支援が必要な子どもも年々増えていると感じる。
- ・支援の必要な子ども達も増え、一人担任の重圧が大きいように思った。
- ・職員をもっと正當に評価してあげてほしい、自分の感情や主観でなく客観的な子どもも年々増えていると感じる。公平性のある視点を持ち陰で努力している職員の存在を見過ごさない。
- ・園全体で現場の意見が反映されにくい。
- ・補助の先生が掃除をして下さるお陰でその分他の仕事が出来た。
- ・胃腸炎など感染症流行時にペットシーツ・新聞紙・アイナックなどすぐに手配して頂き助かった。

*次年度の改善点

- ・手作りおやつや子どもに人気のあるメニューの紹介など保護者への発信はもちろんHP等にも紹介しても良いのではと思う。
- ・急な変化に戸惑うことも有るので、相談しながら保育者一人一人が納得理解した上ですすめていく。
- ・未満児と以上児の保育は大変さに違い話あるが、もっと園全体で準備したり、考えられるような雰囲気になればと思う。
- ・子どもも職員も精神的に負担の少ない保育や行事
- ・新入保育士その他の職員とコミュニケーションを図る。
- ・色々な学年と遊んだり関りを持てるような場を作る事。
- ・職員の負担が偏らないことが望ましいと思う。
- ・コロナ過が落ち着いた今、行事等の見直しが必要になったり保護者からも意見が出てくるので園全体で考えられたらと思う。
- ・難しい事であるとは重々承知しているが、もう少し保育士を増やし保育士一人一人が気持ちにゆとりが持てるようにしてほしい。
- ・モチベーションが保てるような環境作りがあると良い。
- ・支援児への対応を担任だけでなく他の先生もその子に合った対応が出来るよう

情報を共有し頻繁にすればよいのではと思う。

- ・感染症発生時はより細かい情報を発信し、感染拡大を防げれば良い。
- ・子ども支援親支援の負担も大きくなって来ているのに話し合う時間が少なかった。
- ・子どもの「やりたい」「楽しい」を沢山見つけ活動に組込んでいく。
- ・子ども達が考え、行動しようと思えるような環境づくりを行う。